



## 目次

はじめに

概観：ソフトウェアディファインドビークルへの取り組みの概要

要旨：本レポートの重要なポイントおよび結論

基本情報：本調査で取り上げるE/Eアーキテクチャについて

分析：本予測レポートで確認された5つの主な動向の分析と、効果が期待できるソリューションについてのSBDの見解

サマリー表：各OEMのアーキタイプ対応状況と、現在、5年後、10年後の主要プラットフォームの概要

今後の展望：OEM組織においてSDVのメリットが実現される時期を予測するために、将来の推進要因と阻害要因をもとに4タイプのOEMを考察

## 関連レポート

ソフトウェアディファインドビークル：組織構築と戦略  
レポート番号：403

本書では、SDVを新車ラインナップに取り入れるための様々な戦略を提示します。その過程において、業界の主要プレイヤーがSDV開発にあたってどのように組織を構築しているかについて解説するとともに、ステークホルダーが現在追求している製品、サービス、ビジネスモデルを明らかにします。また、組織的な観点からSDV開発における課題と制約をまとめています。

レポート番号：#402



Connected & Autonomous

# ソフトウェアディファインドビークル 将来予測

今日の車両において先進のハードウェアおよびソフトウェアの搭載が進む中、ソフトウェアディファインドビークル（SDV）の時代が到来する日もそう遠くはありません。高級車／量産車OEMのみならず、比較的新しいブランド、プレイヤー、スタートアップなども、そのような革新的技術、さらにはソフトウェア中心の機能やサービスを採用した車両を発表しています。

こうした新機能の市場の最終的な拠り所となるのは、車両のE/Eアーキテクチャとそのエコシステム由来のプラットフォームの間の相関関係です。そのため、SDVの開発を目指すOEM、ブランド、スタートアップは、相乗して動的に進化し得るE/Eアーキテクチャとプラットフォームそれぞれについて強力な戦略を立てることが重要です。

本書『ソフトウェアディファインドビークル将来予測』では、地域別、セグメント別にアーキテクチャの今後の成長についての予測を提示しています。今後10年間の予測を通じて、主要OEMグループが将来のE/Eアーキテクチャ要素をどう展開していくかを解説した上で、その進化について評価します。付属のExcelデータベースには、欧州、米国、中国における車両プラットフォームおよび車両アーキタイプの採用率と採用車両データを提供しています。

### 対象市場

欧州 米国 中国  
日本 グローバル その他

### レポート発行頻度

 毎年更新  半年更新  四半期更新  毎月更新  1 ワンタイム

### レポート形態

 PDF  PowerPoint  Excel  Online

### ページ数

 83

## 本書について（調査対象・範囲）

本書では下記について解説しています。

- > SDVに特化したイネーブラーやテクノロジーはどのような進化を遂げると予想されるか？
- > OEMの戦略と選択は、SDVの導入ペースと今後10年間の販売台数にどのような影響を与えるか？
- > トrendとSDVの採用は地域によってどのように異なるのか？
- > SDVへの移行に伴う、OEMやサプライヤーへの影響とは？
- > 従来システムはどのような役割を果たし、これらのプラットフォームはいつまでサポートされるのか？

## SBDカスタマーポータル

ご契約いただいたレポートへはお客様専用ポータルサイトからアクセスいただけます。

ポータルサイトのアカウントはご契約企業ごとに作成され、ご契約企業に所属する方であれば登録ユーザー数に制限はございません。

ご契約状況の確認や、ポータルサイトへの新規ユーザー登録をご希望の場合は、SBD Automotive ジャパンまでお問い合わせください。



## 本書に関するお問合せ・お見積り依頼 「ソフトウェアディファインドビークル将来予測」

お問合せ・お見積り依頼



サンプルレポートの無料ダウンロード

